

第二次田原市生涯読書振興計画（案）への図書館協議会委員の意見

◆全体について

- 計画は誰に向けて書かれてあるのか、市民なのか、職員なのか、図書館関係者なのか。対象を広く設定せざるを得ないなら、暗黙的に「誰が誰に」はわかるようにして、ターゲットの心に刺さるような文章・内容・計画としたい。特に「連携・協働」を掲げるなら、関係者が目標を共有し、同じ認識が持てるようにしたいので、心に刺さるのがいい。
- 職員や図書館関係者が常備して、何かあった時・何かをするときに参考とするバイブルのような存在になってほしい。

◆重点的に取り組む施策について

- 5年間で絶対にやり遂げるといふもののかかげてほしい。しかもその実現方法に関しては、計画策定段階にある程度具体的に考えてほしい（計画書に掲載しなくてもいいし、また方法も変わっていいので、とりあえず方法も考えてほしい）。
- 重点的と言いながら、あまり考えずに記載しただけというのが多いので、改定を通して作成者の「想い」が入るように言葉ひとつにもこだわってほしい。「活性化」や「振興」というような定型語で逃げないでほしい。

I. 生涯にわたる読書活動

- 「幼児から高校生」が図書館にもっと関わりを持ちたいと思う取り組みがほしい。そのためには「図書館の概念」を一度壊した方がいいのかもしれない。

II. 子どもの読書環境の整備について

1. 学校図書館支援機能の充実

- 現在、ほとんどの学校図書館にはコンピュータが無く、貸出・返却手続きは手作業で、蔵書データや貸出実績を読書指導に生かしていないのが現状である。まず、学校図書館へのパソコン設置を市教委にお願いしたい。
- 学校図書館の読書環境の整備として、蔵書のデータベース化（バーコードによる管理）が必要。学校間で蔵書を比較して、購入する本の重複を避け、授業で使用する資料の貸し借りができるようになれば、今以上に学校図書館が充実する。さらに公共図書館と学校図書館の蔵書システムが連携できれば素晴らしい。
- 学校司書の事務（登録）事業のIT化は遅れに遅れ、いまだに近隣にも稀に見る手作業で成されている。これでは図書館との連携と学校司書の負担軽減には遠い。学校司書の複数校担当というハードワークもずっと続く。学校司書配備の目標とされた人材増が叶わないのなら、時代遅れの手作業登録業務のIT化は必須。
- 学校でも一人一台のタブレットの活用方法を模索中である。調べ学習等で学校図書館

のデータ集にアクセスし、情報の取捨選択ができるようになってくるとよい。

- 学校司書の役割がとても大切である中、本年度から学校司書が1名減となり、いくつかの学校では来校日数不足が原因と思われるが、司書への負担が大きくなり、学校の図書館の運営にも影響が出てくるのではと危惧している。
- 長年続けて来た朝読などのボランティア活動を支える為には、学校図書館・図書館との連携を深める事が効果的。衣笠校区のような連携は難しいが、そのモデルを活用する事は可能。それには学校司書（と司書）が関われる時間がどうしても必要だ。今では夢だが、学校司書にとってはせめて1司書2校担当で、子どもたちとしっかり良い関係性を持っていて欲しい。

Ⅲ. ふるさと教育を軸にした文化創造と地域活性化

- 「ふるさと」はたくさんある、という視点を持って欲しい。特にひと昔前には「ふるさと」は「望郷」とのセットで語られたりしたが、人の移動が頻繁になっている現在の暮らしの中に生まれた感覚は多種多様である。無闇にステレオタイプの「ふるさと」を強調する事は「押し付け」と感じる逆効果を生むこともあると思う。
- 元々の違いを持つ3つのまちが合体合併したということは「特色」のオンパレードになって当たり前～「まち（地域、コミュニティ）自慢」大会を行なって、差を再確認することをベースのしたらどうか。本来「区史」まとめなども盛んに編まれている田原、スポーツ大会ならぬ区自慢大会。
- 田原市の偉人について、学ぶ機会は博物館の常設展示をはじめ、図書館主催でも何回か開催され、実績、功績について知る機会はある。子どもたちが、この地を好きになり、住んでみたくなる機会はどうしたら与えられるのだから、豊かな自然、人々の豊かな心等は不可欠であろう。ふるさとを愛するところは、曖昧模糊ゆえに、抽象的な言葉の羅列になりやすい。個人の尊厳と多様性の尊重、男女平等、ジェンダー平等において日本は後進国である。ふるさとの偉人が生きた時代は、歴史的にみても男性優位社会である事から、時代のギャップが大いにある。偉人から学び現代へ繋げる視点工夫もふるさと教育ではないか。これからの地域活性化においては、個人の尊厳と多様性の尊重、男女平等、ジェンダー平等の視点がどう生かされていくかにかかっている。又、文化創造においても同様の事が言えると思う。山田もとさんの本からわかるふるさとは、生活の水がなく苦労した人々の暮らしと人間模様が心に刺さってくる。わずか50年前まで田原の人々はそういう環境の中で暮らしていて、今がある事、日本一の農業地帯が抱える問題や持続可能な地域づくりをしている人々の主張に耳を傾けることも、ふるさと教育につながるはずだ。

Ⅳ. 地域の情報と交流の拠点づくり

- 市民館は市役所の分署的な役割が大きく、そこに重点を置く事によって、その他の接点

を排除する事が多い。衣笠市民館は、長年良い関係を気づいて来た「3世代交流」の機動力になっている「おやこ劇場」始め市民活動との関係性も築いてきたが、そういうことは稀である。童浦市民館図書室改善協力もこれで3年余になるが、協働で進めていこうというコミュニティからの積極的な動きは薄い。これは1・2年で交代するお役所仕事の「お役目」としか住民が認識しないことへの弊害か？まちを愛するという気持ちは住む地域への関わり方が大切だと思うが、仕事を増やすことへの抵抗が常々感じられる。

- 大草校区の事例など（「山田もと生誕100年事業」取り組み）、経験から学ぶ事が多い。それは「田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会」の存在があったからだろうか。図書館が関わったアウトリーチ事業としては「前日物語」事業では、歴史・市民協働ジャンルを下敷きにしたデータベース作り、「山田もと生誕100年」事業では文学史実とまち・地域をつなげる役割を果たした。これらのアウトリーチ事業はまさにまちの拠点作り成果と言える。
- 無意識の差別偏見（アンコンシャスバイアス）は誰の心にも存在している。いくら法整備が進んでも、社会の慣習や人々の意識は法整備前と同じという事が多い。長年にわたる社会慣習の刷り込まれは、男尊女卑、男性優位、女性は男性の補助という意識で社会が動いている。図書館として、少数派の意見を聴く会、地域の問題提起等を指標に入れてはどうか

V. 連携・協働による図書館活動の拡充

1. 協働による図書館運営の推進

- 地域の中には個人でたくさんの本を持っている人がいる。リサイクルブックオフィスは寄贈だが「こんな本を寄贈しても要らないのでは」と遠慮してしまう人もいないか。また、本を持っていくのが面倒と感じる人もいる。ネットで本の情報を入力すれば欲しいかどうかわかるようなシステムがあるとよい。少しでもお金になるとか特典があれば協力してくれる人が増える。リサイクルブックオフィスに本がたくさん集まると良い。
- ボランティアとの協働について全体的に考える。田原市の現状を見つめ直すと、小学校への朝の読書、くぬぎの会などのおはなし会開催、親子交流館とのイベント開催協働など、立場と目的を配慮しながらの連携が上手く進行していると思う。ここで「足りない」と考えられるのは更なる学びの機会共有だと思う。この交流が難しい昨今だが、数少なくなっていく講習会開催だからこそ情報共有と、参加方法の工夫をしてほしい。
- 研修会の開催は、コロナ下では方法を考えないと成功できない。この方法の問題を、館内でも検討すべきだと思う。他方、図書館のボランティアグループなどが発信したい学び・研修会などもある。それらはその団体のニーズにもよるが、参加者限定が少ない研修については、図書館と機会共有できないだろうか？（事例：今年度起案していたが開

催できなかった「クラウンKさんパフォーマンス」くぬぎの会など、図書館主催の研修会への一般参加なども)また、図書館でのテーマ展示への利用者リアクションを確かめる(「いいね」を確認?)方法がないのだろうか?また図書館からのSNS発信の効果なども具体的に記載されているのか?

- 連携・協働はとてもいいと思う。また3つの個別施策もこの方針を実現するための戦略として適切だと思う。「想い」や「具体的方法」を深く考えながら、心に刺さるような文章・内容を是非検討してほしい。
- 人生100年時代と言われる中、男は意識が変わらないといけない。働き方改革や定年後の生き方などこれまでと大きく社会が変わってくるので、地域社会への参加や関わりは結構需要になっていく。地域企業や定年者と上手く連携・協働すると良い。

◆その他

- 本計画が5年間のアクションプランとなり、1年毎の計画を立て、その取り組みを評価していく仕組みに賛成する。参加目標への達成度確認に期待したい。
- 5つの基本方針の重点目標を明確化して、取り組みと成果を出す「数値目標だけでなく、定性的な指標も取り入れる」とは、具体的に「概ね〇タスクの〇〇パーセント達成」などという結果を出すと言う事を指すのか。

まち＊ほん

田原市生涯読書振興計画

(案)

令和3年度～令和7年度



令和3年3月

田原市図書館

目次

第1章 計画の概要	4
1 計画の目的	4
2 計画の位置づけ	4
3 国の法令との関係	4
4 計画の期間	5
5 計画の策定体制	5
第2章 前計画の取組みと評価・課題	5
1 前計画の取組み	エラー! ブックマークが定義されていません。
2 前計画の評価	5
3 前計画の課題	6
第3章 基本理念・基本方針	7
1 基本理念	7
2 基本方針	7
I 生涯にわたる読書振興	7
II 子どもの読書環境の整備	8
III ふるさと教育を軸にした文化創造と地域活性化	8
IV 地域の情報と交流の拠点づくり	8
V 連携・協働による図書館活動の拡充	9
第4章 施策体系（ロジックモデル）表	10

第5章 計画の進行管理体制	11
---------------------	----

第1章 計画の概要

1 計画の目的

「まち＊ほん生涯読書振興計画（平成27年度～令和2年度 以下、「前計画」といいます。）は、「第二次田原市子ども読書活動推進計画」を発展的に引き継ぎ、子どもに限らず、誰もが自主的に読書活動を行うことができるように、その読書環境を整備するための指針として平成27年に策定しました。その後、田原市では教育の主要な柱として位置づけるふるさと教育を充実させるために、平成31年1月に「ふるさと教育取り組み指針」を策定、令和元年10月にはふるさと教育センターが開設されました。このように、ふるさと教育を軸とした地域づくりを目指す中、前計画の計画期間の終了を迎えることに加え、人口減少、少子高齢化、急速な情報化、ライフスタイルや価値観の多様化、新型コロナウイルス対策や新しい生活様式への対応など、社会情勢の急速な変化や社会を取り巻く新たな課題へ対応しながら読書振興をさらに進めるために計画を改定するものです。

2 計画の位置づけ

本計画は、「田原市総合計画」や「教育大綱・教育振興基本計画」を上位計画とする個別計画として位置付け、上位計画の方向性等を踏まえ、また教育関連の他の個別計画とも連動しながら、生涯読書を推進するための考え方・体系を明らかにするものです。

3 国の法令との関係

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」及び「文字・活字文化振興法」にもとづき策定するものであり、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項に定められた「市町村子ども読書活動推進計画」を兼ねるものです。

4 計画の期間

本計画の期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
計画策定	教育大綱・教育振興基本計画				
計画策定	第二次生涯読書振興計画				

5 計画の策定体制

本計画の策定に際しては、図書館法にもとづき田原市図書館条例により設置されている田原市図書館協議会において検討が行われ、教育委員会定例会、総合教育会議および議会（文教厚生協議会）へ報告を行い、それに対する各委員等からの意見を踏まえ策定を行いました。

第2章 前計画の取組みと評価・課題

1 前計画の評価

前計画では、計画全体に関する評価指標として、田原市図書館の資料貸出点数に加え、1年間、本を読まない人が田原市の人口に占める率(不読率)を使用しました。田原市図書館の令和元年度の資料貸出点数は約67万6千点で、田原市人口一人当たりの貸出点数(貸出密度)は10.98点、年に1回でも借りた人数が田原市の全人口に占める比率(実利用率)は15.9%です。貸出密度については全国平均が5.2点⁹であり、田原市はきわめて高い水準にありますが、貸出点数は毎年微減し、貸出密度と実利用率は目標値を達成することができませんでした。原因としては、資料費の減少や人々のライフスタイルの変化の影響が大きいと思われます。

⁹ 「社会教育調査－平成30年度結果の概要」文部科学省より

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/kekka/k_detail/1419659.htm

	平成27年度	目標値	令和2年度
貸出密度（田原市人口一人当たりの貸出点数）	13.67点（平25） ^b	14.00点	10.98点（令1） ^c
実利用率	19.2%（平25） ^b	20.0%	15.9%（令1） ^c
不読率	小学生 9%（平26） ^d 中学生 8%（平26） ^d 成人 19%（平23） ^e	減少	小学生 0%（令2） ^f 中学生 0%（令2） ^f 成人 - ^g

2 前計画の課題

人口減少や厳しい財政状況の中で、貸出冊数の増加など定量的な数字のみを評価指標としていくことは困難な状況になっています。限られた財源による、より効果的で効率的な図書館運営を行うとともに、市民目線に立ち、市民のニーズに沿った各種サービスが求められています。評価指標についても定性的な数字を含めたサービスの効果を検証できる評価指標や利用者や関係者を含めた参加型評価の導入等を検討していく必要があります。

^b 『田原市の図書館 図書館事業年報（平成25年度）』田原市図書館（平成26年6月）より

^c 『田原市の図書館 図書館事業年報（令和元年度）』田原市図書館（令和2年6月）より

^d 『読書アンケート』（平成27年度実施）より

^e 『田原市民の読書と図書館への期待—子育て世代へのアンケート調査から—』椋山女学園大学文化情報学部 司書課程研究室（平成24年3月）より

^f 『読書・図書館に関するアンケート』（令和3年2月実施・市内小学4年生と中学2年生対象）より

^g 成人の不読率については平成23年度以降未調査

第3章 基本理念・基本方針

1 基本理念

計画のめざす基本理念は「誰もが自然に読書に親しめるまち」です。

近年、日本人の読書離れが進んでいるといわれますが、人々が、自らの豊かな知性と感性を育て、人間や社会や自然を理解し、自立した暮らしを営むために、読書の重要性は、年代を問わずますます高まっているのではないのでしょうか。市民一人ひとりが読むことを通じ、さまざまな事実や意見を比べながら、じっくり考えて物事を判断する能力と習慣を養うことは、民主的な社会の前提でもあります。読書の習慣は自分で考え行動する習慣につながり、本をめぐる語らいは人と人の心をつなぎます。読書は人の「自立」と「つながり」の両方に役立ちます。それゆえに、読書は生涯にわたる発達に欠かせない活動でもあります。子どもの読書は大人の読書の基礎であると同時に、読書する大人がまちじゅうにいることこそが子どもの読書にとって最良の環境です。

また、本計画の愛称である「まち＊ほん」は、「まち」と「ほん」を掛け合わせていることを表し、“マチホン”と読みます。本がまち全体に行き渡り、読書とまちづくりが互いに影響し合うことにより、両方が飛躍的に発展してほしいという願いをこの愛称にこめています。

2 基本方針

I 生涯にわたる読書振興

乳幼児から高齢者まで全生涯にわたって読書ができる環境を整備します。学びや楽しみのための読書だけでなく、暮らしや仕事に役立つ資料や、地域の課題解決に必要な資料や情報を提供します。紙に印刷された書物だけでなく、視聴覚資料の充実や来館せずに利用できる電子書籍の提供も目指します。また、図書館利用に障害のある人の情報収集や学ぶ機会を提供します。

テーマ展示やブックリストを作成し、いつ図書館に来ても新しい情報が入手でき、人々の知的好奇心を喚起するような魅力的な棚づくりを行います。また、市民がいつでも気軽にレファレンスサービスを利用でき、信頼できる情報を効率的に入手し、生活や仕事、まちづくりに活かすことのできるようサービスの周知を強化します。

II 子どもの読書環境の整備

子どもの読書推進には学校との連携が欠かせません。移動図書館車による全小学校への巡回事業は貸出冊数が増加傾向にあり、活発に利用され、子どもの読書活動の主軸の一つとなっています。今後も移動図書館車をはじめ、様々な配送手段で学校への図書の配送を行いながら、学校司書や教員の支援も充実させていきます。

コロナ禍により市内の小中学校のICT化が急速に進みつつありますが、学校図書館の電算化が行われている学校は少数にとどまっています。引き続き市内全ての学校図書館の電算化を目指し進めていきます。

ブックスタートの実施やおはなし会を始めとする図書館での児童サービスを充実させ、子どもの読書習慣が身に付く事業を実施します。

III ふるさと教育を軸にした文化創造と地域活性化

「ふるさと」とは、生まれ育った土地でなくても、住んでいる土地に好感や愛着があれば「ふるさと」として、心のよりどころや、世界を知るための基準（ものさし）となります。「ふるさと教育」とは、地域の教育資源や、それらに関する資料を教材として、ふるさとに関する知識を広げ、認識を深める学習と、それを支援するための活動です。図書館では、ふるさと教育を進めるために地域資料を充実させ、田原のことは図書館に来れば全てわかる状態を目指します。また、地域資料のデジタルアーカイブ化やオープンデータ化を進め、誰もが地域の資料を利用しやすい環境を構築します。また、ふるさとについて学び、発信する機会を提供します。

児童サービスを充実させ、子どもの読書習慣が身に付く事業を実施します。

IV 地域の情報と交流の拠点づくり

図書館を地域における情報と交流の拠点として、施設の魅力を高め、他の教育文化施設とのネットワーク化や複合化による相乗効果を高めていきます。赤羽根図書館については社会教育施設個別施設計画に基づき、施設の複合化を目指して検討を進めていきます。

ICT・テクノロジーを使いこなす市民を増やし、新たな価値を生み出す活動を支援するため、館内のWi-Fi環境等を整備し、データベースの提供、プログラミング講座等を実施します。豊橋技術科学大学等との連携により最新のテクノロジーに触れ、学ぶ機会を提供します。

V 連携・協働による図書館活動の拡充

田原市図書館はその成り立ちから市民とともにつくられ、今に至るまで市民との協働によって運営しています。おはなし会や元気はいたつ便、ブックスタート等のボランティアグループや、リサイクルブックオフィス事業を担当するNPO法人たはら広場など、毎日の図書館の運営に市民のサポートを欠かすことはできません。厳しい財政状況下において、質の高いサービスを維持、向上させるために、市民や団体、企業等との連携・協働を進めていきます。

資料費等の減少を補うため、令和2年度から開始した雑誌スポンサー制度をはじめとしたファンドレイジングへの取組みを進めるなど、支援者（ファン）を増やしていきます。

生涯にわたる読書活動のPRするためのイベント等の実施やSNS等を活用して情報発信力を強化します。

第4章 施策体系(ロジックモデル)表

第5章 計画の進行管理体制

本計画は、今後5年間の田原市図書館の取組の方向性とアクションプランを示すものです。各年度の取組内容や具体的な評価指標、数値目標に関しては、新たな課題や社会状況の変化を踏まえて、1年毎の事業計画を作成し具体化を図るとともに、毎年その達成状況に対して評価を行い、施策のPDCAサイクルを実施します。

また、事業計画の内容やその評価については、図書館協議会において提言をいただくとともに、利用者アンケートや児童・生徒を対象とした読書アンケート等を活用し、事業計画へ反映していきます。

まち＊ほん
田原市生涯読書振興計画
令和3年度～令和7年度

令和3年3月
発行 田原市
編集 田原市図書館
〒441-3421 愛知県田原市田原町汐見5 田原市中央図書館
電話 0531-23-4946

		施策	連携・協働機関等	指標
最終アウトカム (上位目的)	誰もが自然に読書に親しめるまち			
中間アウトカム (作戦目的)				
01 生涯にわたる読書振興				
0101	課題解決支援サービスの推進			
010101	図書館資料の充実	資料の収集・整理・貸出		貸出点数、貸出密度、実利用率、リクエスト点数
010102	電子資料・データベースの提供	電子資料、データベースの提供		電子資料貸出点数、データベース利用数
010103	行政・議会支援サービスを始めたレファレンスサービスの充実	行政・議会支援サービスの実施 レファレンスサービスの実施	議会・市各課	行政・議会支援サービス実績 レファレンス件数
0102	障害者・高齢者の読書環境の整備			
010201	障害者サービスの充実と利用促進	にじいろサービスの実施、サビエ図書館、国会図書館データベースサービスの提供	地域福祉課 社会、社会福祉協議会、ボランティア	郵送貸出回数、音訳図書作成数、サビエ図書館等利用数
010202	高齢者サービスの充実と利用促進	元氣はいたつ便、回想法の実施、大活字本等の資料の充実	高齢福祉課、高齢者福祉施設、ボランティア	実施回数、参加者数、貸出回数、満足度
0103	各世代のニーズに合わせた読書環境の充実			
010301	子育て支援等情報の提供	保育園などへの子どもの読書に関する状況提供、図書館での子育て支援情報提供	子育て支援課	
010302	中高生向けサービスの充実と利用促進	YAサービス、職場体験受入、高校連携、ジュニア司書講座	学校教育課、県立高校	貸出冊数、団体貸出、職場体験受入人数、連携事業数、ジュニア司書講座修了者数
010303	知的好奇心を喚起させる展示や読書案内	テーマ展示、ブックリストの作成		展示回数、ブックリスト作成数
02 子どもの読書環境の整備				
0201	学校図書館支援機能の充実			
020101	学校図書館支援センター機能の充実	レファレンス、団体貸出、司書やボランティアによるブックトーク、読み聞かせ等の実施	学校教育課	レファレンス件数、団体貸出件数、 不満足
020102	移動図書館巡回、配達便による資料提供	移動図書館巡回、配達便による貸出	学校教育課	移動図書館巡回回数、貸出冊数、 満足度
020103	GIGAスクール構想に対応した学校図書館のICT化推進		学校教育課	学校図書館電算化
020104	学校司書、図書館担当教員の知識・技能向上支援、授業支援	田原市図書館と学校図書館との連携を考える会、学校図書館運営研修会の開催	学校教育課	司書連絡会回数、研修会回数、レファレンス件数
0202	児童サービスの充実			
020201	おはなし会、工作教室等イベントの実施	おはなし会、工作教室実施	ボランティア	おはなし会等回数、参加者数、満足度
020202	展示、ブックリスト等の作成	展示、ブックリスト等作成		回数
020203	親子交流館等との連携	出前図書館、赤ちゃんサロンでのおはなし会実施	親子交流館	出前図書館回数、貸出数
0203	乳幼児向けサービスの充実			
020301	ブックスタートの実施	ブックスタートの実施	子育て支援課、ボランティア	ブックスタート回数、参加者数
020302	保育園、こども園等における読書環境の向上	団体貸出、出張おはなし会、図書館訪問開催	子育て支援課	団体貸出数、出張おはなし会回数
020303	乳幼児向けおはなし会等イベントの実施	乳幼児向けおはなし会開催	ボランティア	おはなし会等回数、参加者数
03 ふるさと教育を軸にした文化創造と地域活性化				
0301	ふるさと学習に役立つ資料の充実			
030101	地域資料の充実、調べ方案内やテーマ別リストの公開	地域資料コーナーの充実、新聞記事見出しデータベースの充実	文化財課、学校教育課、ふるさと教育センター	各件数、 アクセス数
030102	デジタルアーカイブやオープンデータの推進	デジタルアーカイブ、オープンデータ公開、新聞記事見出しデータベースの充実	文化財課、ボランティア	資料公開件数
030103	田原市の全ての情報が手に入る環境の整備	地域資料コーナー、行政・議会支援サービスの充実	市各課	市民意識調査(個別の取組・市の行政に関する情報をどこで得ているか)
0302	ふるさとについて学び発信する機会の提供			
030201	ふしぎ文学半島プロジェクト、ウィキペディアタウン等の実施	ふしぎ文学半島プロジェクト、ウィキペディアタウン等の実施	文化財課、ボランティア	実施回数、参加者数、 満足度
030202	ふるさとについて学ぶ機会の提供	講座等の実施	文化財課、ボランティア	実施回数、参加者数、 満足度
030203				
0303	ふるさと教育推進ネットワークの構築			
030301	ふるさと教育に関わる団体・施設等との連携		市各課、コミュニティ協議会、ボランティア等	連携回数
030302				
030303				
04 地域の情報と交流の拠点づくり				
0401	市内全域への図書館サービス			
040101	地域の情報と交流の拠点としての中央・赤羽根・瀬美図書館の充実	館内サービスの充実		来館者数、 来館者満足度 、市民意識調査(各分野での市の取り組みについて、個別)
040102	社会教育施設個別施設計画に基づく赤羽根図書館の複合化検討		市各課	赤羽根図書館複合化
040103	アウトリーチサービス、市民館等の施設との連携による読書振興	アウトリーチサービス、市民館等の施設との連携による読書振興	生涯学習課	アウトリーチ件数、団体貸出
0402	人と情報の交流の場としての機能向上			
040201	人がつながり、地域の課題解決の場となる機会の提供	ワークショップ等イベント開催		イベント等実施回数
040202	サードプレイスやコワーキングスペース、自習の場として快適な環境の整備			来館者満足度 、 来館目的調査
040203	多文化・多様性の理解促進	外国語資料の充実、多文化・多様性の理解促進に関する資料の充実		蔵書冊数
0403	ICT・テクノロジーを使いこなす市民を増やす			
040301	プログラミングやICTを学ぶ機会の提供	たはLab等講座の開催	学校教育課、豊橋技術科学大学、Code for MIKAWA、ボランティア等	講座回数、参加者数、満足度
040302	インターネットやデータベース等による情報収集環境の整備	Wi-Fi整備、タブレット貸出、データベース提供		タブレット貸出件数、データベース利用件数
040303	豊橋技術科学大学等との連携による事業実施	技科大連携事業	豊橋技術科学大学等	イベント等実施回数、 満足度
05 連携・協働による図書館活動の拡充				
0501	協働による図書館運営の推進			
040101	ボランティアの育成と連携の強化	ボランティアとの協働	ボランティア等	ボランティア登録者数、稼働率、 満足度
040102	団体・機関との連携によるサービスの充実	団体との連携	ボランティア等	連携イベント等回数
040103	リサイクルブックオフィスとの協働による資料の活用	リサイクルブックオフィスの運営支援	ボランティア等	リサイクルブックオフィス売り上げ、寄贈図書金額
040104	協働を推進する職員のコーディネーター、ファシリテータースキルの育成			研修会実施
0502	資料やサービス充実のための支援者(ファン)の獲得			
040201	雑誌スポンサー制度を始めとするファンディングへの取り組み	雑誌スポンサー制度		雑誌スポンサー数、寄附等件数
040202	図書館の認知度向上	メディア掲載、講師派遣、視察受け入れ等		メディア掲載数、執筆掲載回数、視察受け入れ件数、市民意識調査(田原市のどこを)
040203				
0503	生涯にわたる読書活動のPR			
040301	生涯読書をPRするためのイベントの実施	展示、イベント等開催		展示回数、イベント回数、参加者数
040302	ホームページやSNSを活用したPRの充実	ホームページ充実、SNS発信		ホームページアクセス件数 、SNSフォロー数
040303				